



13市町 1 億円超え、国東市は10億円

県内市町村の2022年度ふるさと納税収支

	収入額	流出額と経費の合計	実質収支
大分市	9億8446万	15億6144万	▲5億7698万
別府市	8億4811万	5億8879万	2億5932万
津市	2億4941万	2億2972万	1969万
日田市	4億1917万	2億4023万	1億7894万
佐伯市	8億9621万	4億9081万	4億540万
臼杵市	6億5949万	3億1985万	3億3964万
津久見市	1億557万	6657万	3899万
竹田市	4億3524万	2億239万	2億3285万
豊後高田市	4億2880万	2億2223万	2億657万
杵築市	9億2336万	4億5376万	4億6960万
宇佐市	6億823万	3億3955万	2億6868万
豊後大野市	1億8534万	1億1376万	7158万
由布市	5億5846万	2億7335万	2億8510万
国東市	21億267万	10億1655万	10億8611万
姫島村	981万	569万	411万
日出町	8億6201万	4億6576万	3億9624万
九重町	2億826万	1億805万	1億21万
玖珠町	2億1094万	9940万	1億1153万

22年度収支

2022年度の県内18市町村のふるさと納税は、大分市を除く17市町村で実質的な収支が黒字となった。県によると、このうち13市町は黒字額が1億円を上回り、最高は国東市の10億8611万円だった。大分市は市民が他の自治体へ寄付したことによる税の流出が大きく、5億円超の赤字となった。納税制度の浸透で自治体間の競争が激しくなっており、恩恵を受けるにはさらなる寄付の獲得と経費削減が求められるだろう。

※単位は円。1万円未満切り捨て。▲はマイナス。内訳と収支は一致しない場合がある。県まごめ

17ふるさと納税市町村黒字

総務省のデータを基に、各市町村が受け入れた寄付額から、流出額と返礼品などにかかった分を差し引いて県が算出した。国東市はカメラや地元ブランド豚の加工品といった返礼品が人気を集め、県内最多の寄付（21億267万円）を集めた。市外への流出額（19億33万）、返礼品や送料などの経費（9億9692万円）を差し引いても、10億円以上が残った。市活力創生課は「書類送などの事務を外部委託せずに職員がすることで経費を抑えている」と説明する。このほか黒字だったのは

赤字の大分市、流出額最多

▽杵築市 4億6960万円
▽佐伯市 4億540万円
▽日出町 3億9624万円
▽臼杵市 3億3964万円
▽由布市 2億8510万円
▽など。

21年度と比べて最も黒字額が伸びたのは由布市で、1億8297万円の増だった。新型コロナウイルス禍が落ち着き始め、旅館やホテルで使える宿泊補助券など旅行関係の返礼品が人気だった。返礼品掲載サイトを六つに倍増させ、PRに注力したことも奏功した。大分市が受け入れた寄付（9億8446万円）は国東市に次いで多かったものの、流出額（10億8791万円）は県内最多だった。経費（4億7352万円）を加えると、5億7698万円のマイナスとなった。赤字額は21年度（3億7163万円）よりも増えた。市商工労政課は「流出は抑制できず、市外からの寄付が増えるよう力を入れていく」と話した。（江藤舞寿）

ふるさと納税制度では、流出額の75%程度（自治体によって異なる）を国が地方交付税で穴埋めする。自治体ごとの額は公表されないが、県市町村振興課によると、補填後は大分市も黒字になるとみられる。

〔問①〕 県内最多の寄付を集めた国東市。理由は？

〔問②〕 2021年度と比べて最も黒字額が伸びたのは由布市です。理由を二つ探そう。

〔問③〕 あなたの住む市町村の収支を確認し、さらに増やすためのアイデアを考えよう。